

2018 / 秋 / No.107

5 U

来ぶらり

私の

感情を

“動かした”

本



“私の感情を“動”かした本”

学生、教員、職員みなさんに「私の感情を動かした本」を紹介していただきました。
ぐっっと心を揺さぶられるような経験を、ぜひあなたも。

～人類の命題に思いを馳せる～

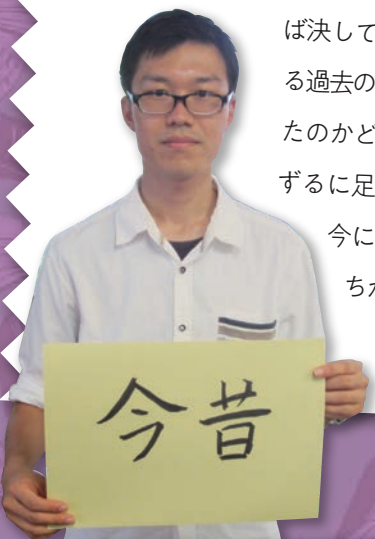
平凡たることを最も嫌った主人公は、やるせない田舎での日々を暮らすうち、遂にすべての夢や希望を打ち消して「平凡の偉大なるを知る」と書くに至る。彼は日露戦争の喧噪の裏に病で死ぬが、平凡は非凡を経験した者しか理解しえない。しかし彼が「非凡」とした日々は、それを平凡と感じる者からすれば決して「非凡」などではない。では我々が時に回顧する過去の「非凡なる日々」は、果たして本当に「非凡」だったのかどうか。過去の「非凡」と今の「平凡」、我々が信じるに足るのは果たしてどちらだろうか、と考えると、今に至る人類の至上命題が写し出されるような気持ちになった1冊である。

人文科学研究科 史学専攻 博士前期課程2年
青木健史



田舎教師

田山花袋作
改版 岩波書店 2018
大学図・1F開架 081.2/33Cア/24a



アルケミスト 夢を旅した少年

パウロ・コエーリョ著
山川紘矢・山川亜希子訳
角川書店 1997
大学図・1F開架 Bunko/P28

己を信じる勇氣!

『アルケミスト—夢を旅した少年—』は、羊飼いの少年が宝物を求めてエジプトへ旅に出るという小さな童話風の物語です。己の夢を信じて進めば望みは実現するというありきたりな話ですが、大学院生で将来の不透明さに悩んでいた当時、己を信じるというのはとても勇氣のいることでした。穏やかな生活も、惨めさに苦しむ生活も、挑戦してゆく生活も、それをよしとするかどうかは自分次第、自分が望むから実現するのだということに気づくでしょう。元氣と希望を与えてくれる一冊です。

文学部史学科助教 小武海櫻子



ハケンアニメ!

辻村深月著
マガジンハウス 2017
東2法経図・6F指定
913.6A/Ts44h/lshll

熱い気持ちで仕事を。

アニメ制作の熱い現場を描いた作品です。登場人物が皆自分の仕事に情熱と誇りを持っていて、どんな困難にぶつかっても、これが自分の選択した道なのだ胸を張っている姿に心を打たれました。働くこと、仕事に向き合うことをリアルに思い描くことができる作品ですので、自分にはどんな働き方が合っているのかを考えるヒントにもなると思います。

教務課 藤岡みづき



…考えさせられます

この本が書かれたのが1960年頃と知り本当に驚きました。なぜなら、21世紀に生きる私たちがチャーリーのような性格の変遷を経ているからです。周囲を疑わない優しいチャーリーは手術で知能を劇的に獲得しました。これは喜ばしい事に思えますが、やがてチャーリーは周囲を見下し、疑い、頑なになってしまいます。

現代の日本人は、知能や成果を重視しすぎるあまり他者への気配りや寛容さ、素直さに欠けていると感じます。この本、特にチャーリーの心の成長過程は、現代の私たちにかつて持っていた優しさを喚起させるものがあると感じました。

文学部心理学科1年 川口紗和



アルジャーノンに 花束を

ダニエル・キイス著
小尾英佐訳 早川書房 1999
大学図・書庫 Bunko/D37



砂漠

伊坂幸太郎著
新潮社 2010
大学図・書庫 Bunko/168

迷っているあなたへ

「過去のことか先のことはどうでも良くてね、今、できることをやるんですよ。」「今、目の前で泣いている人間を救えない人間がね、明日、世界を救えるわけがないんですよ」…舞台はとある大学、そこで出会った男女5人の物語です。その言動から学生たちから疎まれるが、周囲を恐れず、堂々と行動する西嶋という人物に心をグッと掴まれ惹きこまれること間違いなしです!喧嘩の仲直り、留学、就職活動など「どうしよう…」という迷いを持つる人たちにぜひ読んでみてほしい。迷っているくらいならやってみよう!読了後にはそう思っているかもしれません。

会計課 佐藤貴士





十五少年漂流記

ヴェルヌ著 石川湧訳
角川書店 1995 (角川文庫)

大学図・書庫 Kadokawa/ウ 1/1

困難にぶつかったら ...

この小説は遭難した少年たちの無人島での生活を描いています。物語の少年たちは得意分野を生かし支えあい、成長していきます。私は、そんな少年たちに心の中で喝采を上げたり落胆したりとかなり感情移入をしていました。それはこの作品の少年たちの感情や行動が分かりやすく書かれているからだと思います。最後に私はこの小説を通して、挑戦することの大切さを学びました。作中の少年たちは決して諦めませんでした。何か困難にぶつかったときに気分転換に読んでみてはいかがでしょうか。

文学部教育学科 4年 新井雄裕



化学と恐竜学

理学部化学科
教授
齋藤 結花先生

写真は趣味の本棚で、私の専門は恐竜学ではなくて化学です。ここに並んでいる書籍は、東京でここ30年くらいの間に開催された恐竜博のパンフレット、子供向けの恐竜図鑑、サイエンスフィクション、化石発掘、恐竜の進化と絶滅に関する啓蒙書などで、いずれも専門書ではありません。恐竜学は、天文、昆虫、鉱物学などとならんでアマチュア愛好家が多い分野です。近年日本でも多くの恐竜化石が発掘されており、その重要な発見のいくつかは一般人の協力によるものです。2017年に北海道むかわ町でハド



恐竜学コレクションの本棚

ロサウルス類の完全骨格が発掘されたことは記憶に新しいですが、化石の一部を最初に発見したのは、一般人の化石収集家だと聞いています。恐竜化石の発見者になることは、多くの恐竜ファンにとって密かな野望であるにちがいません。

ところで、この中に一冊だけ専門書があります。『恐竜学入門』で、研究者を志す人のための本格的な教科書です。出版社は"東京化学同人"、化学の専門書を扱う化学同人が恐竜の本を出版しているとは、意外です。私は日本化学会の委員を務めた関係で、出版社の人からこの本を教えてもらいました。誰も本物の恐竜を見たことがないにもかかわらず、理学的な解説がなされていることが面白く、ついつい読み耽ってしまいます。



『恐竜学入門』かたち・生態・絶滅
David E. Fastovsky他原著
藤原慎一他訳 東京化学同人
大学図・1F開架 457A/F15k

来ぶらり No.107 2018年9月14日

学習院大学図書館 〒171-8588 東京都豊島区目白1-5-1

発行責任者：石井晋教授 編集委員：内藤沙織・藤本智美

1階貸出・返却カウンター (内線 2397) : ☎ 03-5992-1009 (直通) 2階レファレンスカウンター (内線 2395・2396) : ☎ 03-5992-9249 (直通)

「来ぶらり」のバックナンバーは (<http://www.gakushuin.ac.jp/univ/glim/about/publication.html>) で公開しています。

ISSN 2186-6724